

I

序論

1	計画策定の趣旨	3
2	総合計画の構成と期間	5
3	伯耆町のすがた	6
4	まちの現状と課題	7
5	町民のニーズ	9

1 計画策定の趣旨

将来にわたって町民が安心して心豊かに暮らすことができるまちを実現するため、まちづくりの基本的な方向性を明らかにし、計画的かつ総合的に行政運営を進めていくことが求められています。

近年、人口減少と少子高齢化が進行するなか、地域経済の停滞、生活様式や価値観の多様化、気候変動による災害リスクの増大、デジタル化の進展など、社会情勢は大きく変化し、地域社会にもさまざまな影響を及ぼしています。

これら新たな時代の要請に対応するため、将来像やまちづくりを町民・地域団体・事業者など伯耆町に関わる人と共有し、変化する社会情勢や地域課題に柔軟かつ計画的に対応して、その実現に向けた指針として、2026（令和8）年度を初年度とする「第4次伯耆町総合計画」を策定します。

第4次総合計画における新たな視点:「未来への継承」

持続可能なまちづくり

人口減少や少子高齢化、環境問題といった現代的課題に対応し、将来の世代が安全で安心して暮らせる社会基盤や環境を維持し、更に発展させることを目指します。

自然・歴史・文化・伝統の保全

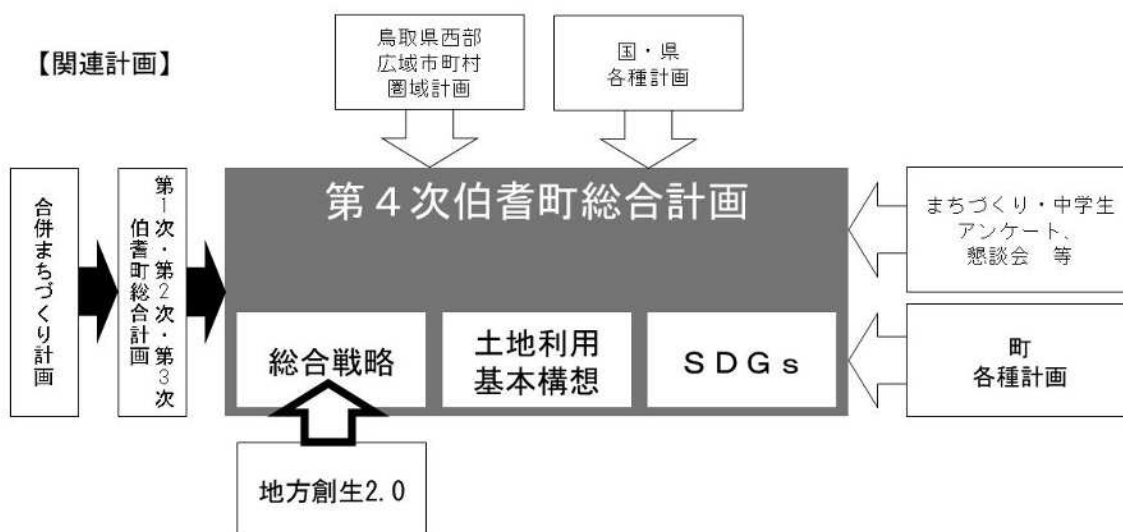
地域の固有の歴史、文化、伝統、自然環境などを貴重な財産として認識し、次世代に継承するための施策を計画に盛り込みます。

将来像の共有と協働

「たしかな未来」や「子どもたちの将来への希望」といった将来像を町民と行政が共有し、住民参画や協働によるまちづくりを推進するための指針とします。

計画の継続性

過去の総合計画で掲げられた基本理念や成果を適切に継承し、一過性のものではなく長期的な視点で計画的な行政運営を行います。



第4次総合計画策定のポイント

- 第3次伯耆町総合計画を継承する計画として策定。
 - 各分野での数値目標、K P I [重要業績評価指標] (※1) を設定し、目標年次の指標を明確化。
 - 「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を包括
 - 「土地利用に関する基本構想」を包括
 - SDGs (※2) の目指す17の目標と総合計画における施策を関連付け
- ※1 K P I [重要業績評価指標] : Key Performance Indicator の略で、数値目標の達成のために重要となる施策の目標値。
- ※2 SDGs : Sustainable Development Goals の略で、2015年9月の国連サミットで2030年までの長期的な開発の指針として採択された「持続可能な開発目標」であり、先進国を含む国際社会共通の目標。

平成26年11月に成立した「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口ビジョンを前提とした総合戦略を平成27年に策定し、第3次総合計画から一体として策定しています。また、国土利用計画法に基づき策定する土地利用に関する基本構想も同様に第3次総合計画から一体として策定しています。

これは、総合計画が町の目指す将来像を指し示すものであり、将来像を検討するにあたっては、人口ビジョンや地理的な環境が基礎的な情報として欠かせません。

こういった関係性からも、人口ビジョンを前提として持続可能な地域づくりを実現するための総合戦略と地理的な環境を踏まえた将来に向けての土地利用の基本構想は、一体であるものと考え、第4次総合計画においても一体的に策定します。

2 計画の構成と期間

本町は、まちの将来像の実現を目指して、まちづくりの基本方針に基づき施策に取り組み、総合的な推進を図ります。

施策は、住民福祉の向上に向けて、基本的な施策を分野ごとに整理し、設定しています。そのうち、特に重きを置き、取り組む施策を**重点**として掲げ、戦略的に取り組む施策として位置づけています。

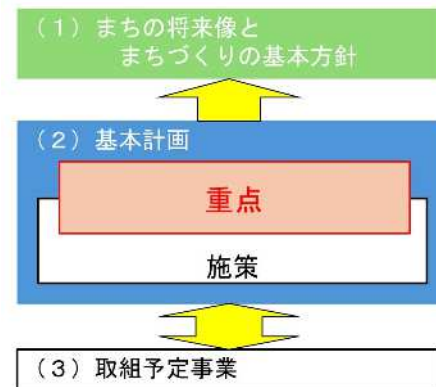
また、本計画は「まちの将来像とまちづくりの基本方針」、「基本計画」、「取組予定事業」で構成します。

(1) まちの将来像とまちづくりの基本方針

長期的な視点に立ってまちの将来像を明らかにし、その実現に向けた基本的な方針を示すもので、計画全体の根幹となるものです。

(2) 基本計画

基本計画はまちの将来像とまちづくりの基本方針を実現するための基本的な方策をまちづくりの分野ごとに現状と課題、施策及び主な取り組みについて明示しています。



【計画の構成図】

(3) 取組予定事業

取組予定事業は、まちの将来像とまちづくりの基本方針、基本計画に基づいて本町が実施する事業を示します。なお、実施計画に基づき実施する事業のうち、子育て支援、産業の振興・雇用創出、まちづくりに関する事業については、総合戦略における実施事業と位置づけ、総合計画の実施事業と一体的に取り組めます。

(4) 計画の期間

令和8年度を初年度とし、目標年度を令和12年度(5年間)としています。

(5) 進行管理

本計画の実施状況については、実施計画について毎年度ローリング(調査)を実施し、伯耆町総合計画審議会で確認の上、伯耆町議会へ報告するとともに、各事業の進捗状況について、町のホームページなどで公表します。

3 伯耆町の特性

(1) 豊かな自然環境に恵まれた町

本町は、中国地方を代表する国立公園大山や鳥取県の三大河川の一つである日野川など、雄大な自然に囲まれたうおいのある環境の中にあります。この恵まれた自然環境を観光や産業など様々な面で活かすとともに、自然環境の保全や自然と調和した生活環境の創出を図っています。



国立公園大山

(2) 多彩な観光資源のある町

本町は、国立公園大山に代表される自然環境を活用したゴルフ場やスキー場・観光リフト、また自然景観を活かした公園や広場、さらには温泉などの観光・リゾート施設が設置され、植田正治写真美術館隣に民間企業の直売店舗が開業し、観光施設として新たなにぎわいの場となるなど、大山を中核とした多彩な観光資源とともに観光エリアを形成しています。



(3) 多様な住環境を有する町

本町は、大山山麓に展開する自然豊かな別荘地、米子市に隣接する生活利便性の高いベッドタウン、そして自然に囲まれた中山間地と3つの異なる住環境が有る町です。

また、町内には中国横断自動車道岡山米子線（以下「米子自動車道」という。）が通過し、溝口インターチェンジ、大山高原スマートインターチェンジ（大山パーキング）が設置されており、山陽方面や関西方面との交通アクセスの利便性が高くなっています。



岸本温泉ゆうあいパル

(4) 農業と観光・交流が連携する町

大山山麓を中心とした農業地帯では、多様な農畜産物が生産され、大山ガーデンプレイスや大山望での直売や都市部への供給が行われています。米のほか和牛、白ねぎ、ブロッコリー等の特産品の生産や民間企業による養鶏業などが行われており、さらに特産品直売施設などでの観光と地場産品との連携など、農業を観光・交流と連携させることによって相乗効果を生み出す取り組みが行われています。



大山ガーデンプレイス

(5) 固有の歴史と文化をもつ町

白鳳時代の大寺廃寺跡から発掘された石製鴟尾や小野小町の墓と伝えられる五輪塔、たたら製鉄の歴史を伝える藤屋炉床や日本最古といわれる鬼伝説など、数多くの文化財や史跡が伝えられています。

また、山陰の自然を舞台に独自の技法で撮影した写真で世界的にも評価の高い写真家植田正治の作品を数多く所蔵展示する植田正治写真美術館は町内の重要な文化施設になっています。



植田正治写真美術館



伯耆町(令和7年4月1日現在)
面積 139.44km² 人口 10,090 人
人口密度 72.4 人/km²
世帯数 3,879 世帯
平均世帯人数 2.6 人/世帯
(住民基本台帳)

4 まちの現状と課題

○人口減少への対応

町の人口は、想定を上回る減少傾向にあり、高齢化率も若干高まることを見込まれています。これらに起因して町の活力低下を招き、医療や福祉などの社会保障経費の増大、税収減などによる町財政の悪化、独居高齢者の増加、地域の自治活動・福祉活動・伝統文化の停滞など様々な分野における影響など、地域の持続性や継承への問題が懸念されます。今後、少子化対策や結婚生活支援、また、介護・福祉の充実や産業の振興などにより、魅力あるまちづくりを進め、人口減少のペースを緩めながら、人口規模が縮小しても地域が持続するための対応が求められています。

○環境や景観の保全

まちづくりアンケートにおいても、本町の豊かな自然は、伯耆町に住み続けたいと思う大きな要因であり、自然環境・景観の保全を求める声も強く、後世に財産として残していくことが必要と考えられます。このため、自然との共生意識の醸成や、ごみの減量化・再資源化などによる自然環境の保護の取り組みや、農地の多面的機能の保持や、景観形成作物の栽培などによる伯耆町の特徴である豊かな田園風景維持に向けた取り組みが求められます。

○安全・安心への取り組み

鳥取県西部地震など過去に発生した災害を教訓とし、また、近年の気候変動を踏まえ、今後予測される災害などを想定し、災害に強い安全な地域づくりを進めていく必要があります。

また、全国的に高齢者や子どもを巻き込んだ犯罪や交通事故、巧妙な手口による消費者被害、特殊詐欺被害の問題が深刻化しており、本町においても住民の不安を解消していくための安全・安心への取り組みが必要です。

○生活の多様化への対応

時代や社会環境の変化により、住民生活は多様化し、従来型の日々の通勤等を前提にした生活から、リモートワークなどの通勤を前提としない生活に拡大し、更には、退職後の自由な暮らしなど、人生において様々な場所で生活が営まれる可能性が考えられます。

伯耆町は県西部の中心都市に隣接する地域から、リゾート地、豊富な自然に囲まれた中山間地域まで存在する多様な居住特性があります。その上で各地区による人口減少の偏差も生じていますので、地域特性に応じたまちづくりが求められています。

○持続的な財政運営

基礎自治体には、住民に身近な行政サービスを提供し、地域の特性に応じたまちづくりを継続させていくことが求められます。

しかし、本町の財政は、地方交付税に依存した財政構造となっているため、多様化した社会環境の中で、ニーズに応じた新たな事業等の展開にあたっては、既存事業の見直しなど効率的な行政運営を実現し、自主的な財源確保等財政基盤の強化などによる財政の健全化を図り、インフラの維持管理をはじめとした、将来の財政需要に対応した行政サービスの提供を持続させていくことが求められています。

○魅力づくりと地域力の創造

本町は、国立公園大山を中心とし、観光地や施設を整備し、まちの魅力として発信してきましたが、近年、ソーシャルネットワークサービス（以下「SNS」という。）などの情報発信では、歴史・文化・芸術、食、体験など様々なものが資源として、魅力となり価値を発揮しています。

今後、本町においても、これらの資源や産業が連携し、相乗的な魅力を生み出し、地域力として発揮する取り組みが必要です。

○デジタルの活用

マイナンバーカードの普及もあり、マイナンバーの活用を前提とした行政システムの標準化が行われ、今後、行政事務において、一層のデジタル活用が必要になります。

住民生活においても、電子決済サービスの利用やSNSなどによる情報流通が標準的になっており、同様に行政サービスの提供においても環境に適応していく必要があります。

デジタルの活用にあたっては、デジタルが苦手な方々の対応も想定し、デジタル活用の推進に伴い生じる安全性の確保や、通常業務へのAIの活用など行政事務の省力化を図り、実現していくことが求められます。

○生活の質の維持・向上

住民生活の多様化により地域住民の生活圏や交流圏は拡大する傾向にありますが、人口減少の影響もあり、商業施設など縮小傾向にあり、公共交通など移動手段が重要となっています。特に山間部の自動車を運転できない高齢者等にとっては、買い物や通院などの交通手段の確保が重要であり、生活の質の維持・向上において公共交通などの交通手段の維持・確保の取り組みが重要となっています。

5 町民のニーズ ～まちづくり・中学生アンケート等の結果～

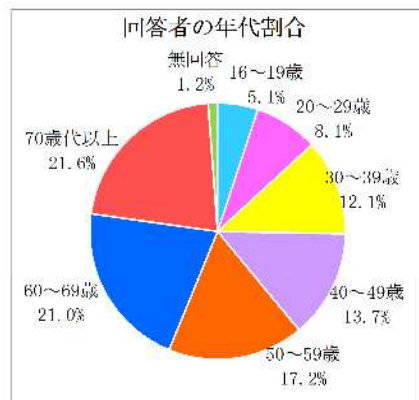
【第3次伯耆町総合計画の評価・総括】

第3次伯耆町総合計画（令和3～令和7年度）の取り組み状況の評価や課題を整理するため、まちづくりアンケートを実施しました。また、未来を担う中学生への伯耆町についてどう感じているかのアンケートを実施しました。

この結果については第4次伯耆町総合計画を策定する上で反映していきます。

<まちづくりアンケート結果>

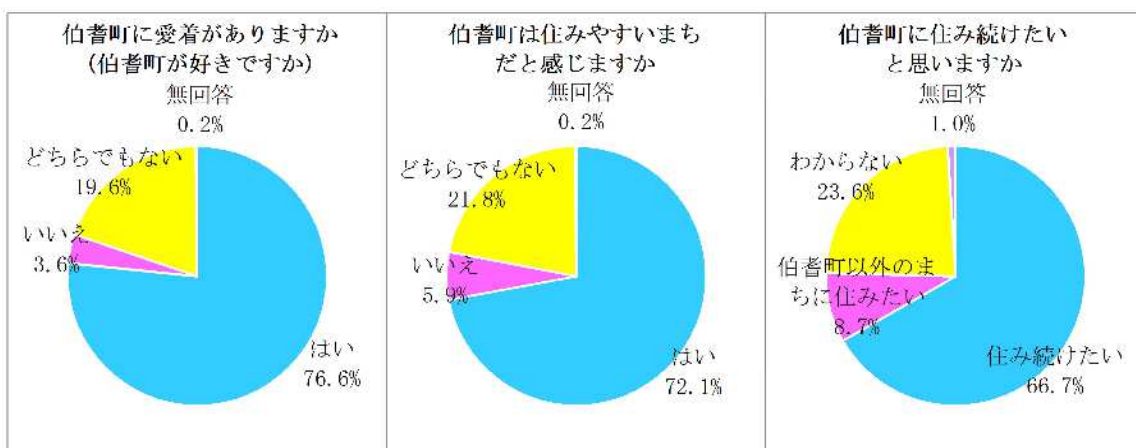
調査対象	16歳以上の伯耆町民
対象者数	8,851人
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送により配布・回収及びWEB回答
調査期間	令和7年7月～8月
配布総数	1,500通
回収総数	505通
回収割合	33.7%



○まちへの愛着・住みやすさについて

伯耆町は、自然に恵まれた町で、多くの住民の方が町に愛着を感じ、住みよいまちであると思われていることが、アンケート結果から明らかになりました。

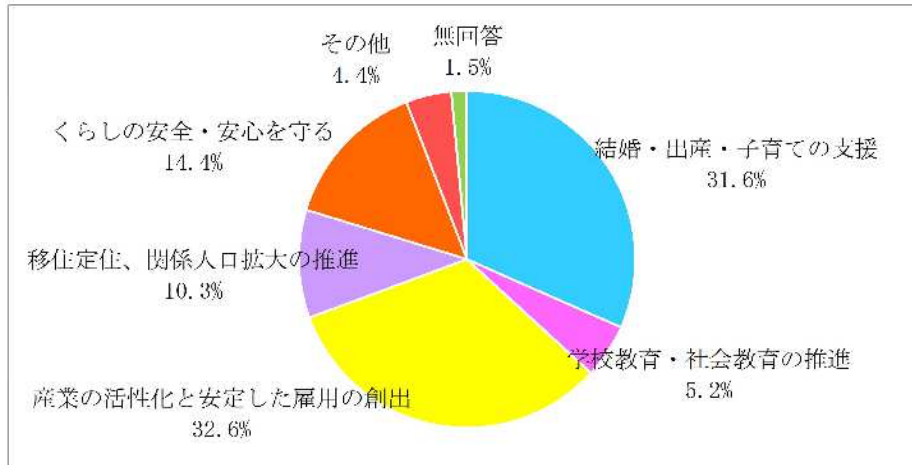
伯耆町に愛着がある（伯耆町が好き）と回答された方は76.6%で前回調査（72.4%）を上回りました。しかし、伯耆町は住みやすいまちだと感じている方は72.1%（前回調査74.4%）、伯耆町に住み続けたいと回答した方も66.7%（前回調査70.6%）といずれも前回調査を下回る結果となりました。



また、伯耆町以外のまちに住みたいと回答された方の理由として、買い物や飲食、公共交通が不便という方が多い結果となっています。

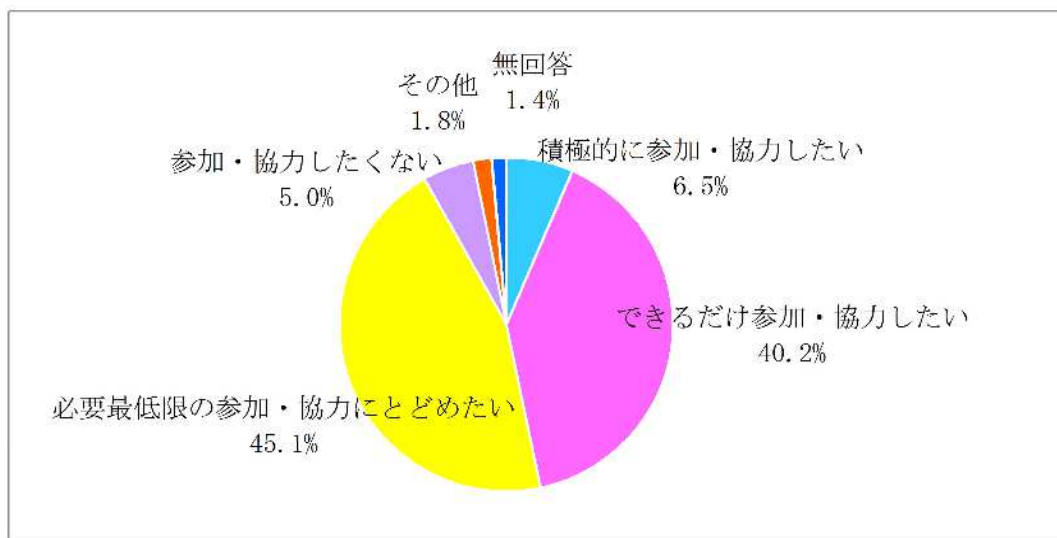
○人口減少の抑制と地域の活性化について

人口減少と地域活性化のために重視すべきことは何かという問いに対して、「結婚・出産・子育ての支援」「産業活性化・安定雇用」が3割以上と回答割合が高かったことから、安定して働ける環境があり、結婚・出産・子育てが安心してできるまちづくりを進めていく必要があります。



○集落（自治会）をはじめとするコミュニティ活動への参加、協力について

今回のアンケートにて、コミュニティ活動についての考えを伺った結果、積極的に・できるだけ参加・協力したいと回答された方の割合が46.7%であったのに対し、必要最低限の参加・協力、若しくはしたくないと回答された方が50.1%という結果になりました。今後、地域を継続させていくためには、コミュニティ活動の取り組み方についても検討が必要です。



○第3次総合計画の実施施策に対する満足度・重要度について

町の取り組み50項目について、満足度と重要度を5段階で評価してもらった結果、満足度については全項目が前回調査より上昇しました。このことから、第3次総合計画に沿って進めてきたまちづくりについて、一定の評価を得ることができたと言えます。

重要度について、最も高い割合を示した分野は「防災・防犯・交通安全」で、次いで「子育て支援」「健康・医療」「福祉」「社会基盤整備」と続きます。

満足度について、最も高い割合を示した分野は「防災・防犯・交通安全」で、次いで「健康・医療」「住環境」「社会基盤整備」「子育て支援」と続きます。

重要度が高い分野は、満足度も高い割合を示しており、これらの分野の取り組みは、継続して望まれていると分析できます。

なお、重要度は高く、満足度が低い割合を示した分野が「産業振興」「福祉」「住民参画・地域づくり」であり、担い手や後継者の育成支援、農地の荒廃防止の取り組み、雇用の場の創出、空き家対策、高齢者・障がい者・生活困窮者への支援などについての取り組み強化が必要です。

伯耆町の取組についての満足度と重要度		
満足度	満足している：10、やや満足：5、どちらとも：0、やや不満：-5、不満：-10 とした平均点	
重要度	重要である：10、やや重要：5、どちらとも：0、あまり重要でない：-5、重要でない：-10 とした平均点	
	青字塗りつぶし：上位5項目	青字のみ：上位6～10項目
	赤字塗りつぶし：下位5項目	赤字のみ：下位6～10項目
		↑：前回調査より上昇 ↓：前回調査より低下

(1) 住環境

「1自然環境や景観の保全」、「3ゴミの減量化やリサイクルなどの推進」は全体の中でも高い満足度となっています。今後も自然環境に生活基盤の整備や自然エネルギーの利用促進等に取り組んでいく必要があります。

(2) 社会基盤整備

「4上水道・下水道の安定供給」は全体で一番高い満足度と重要度となりました。また、「5生活道路網や広域的な道路網の整備」、「8情報通信環境の整備」は全体の中でも高い満足度を示しており取組を継続していきます。

「6地域公共交通の提供」については、住民ニーズに応えるために、運行形態の改善を図りながら事業を実施していますが、満足度は低い結果となりました。満足度と重要度の差も大きいことから、住民ニーズに配慮しながら、持続可能な地域交通の確保に取り組んでいく必要があります。

項目		満足度	重要度
住環境	1 自然環境や景観の保全	4.10 ↑	6.80 ↓
	2 環境への負荷を軽減する取組 (新エネルギー・省エネルギーなど)	1.20 ↑	4.90 ↓
	3 ゴミの減量化やリサイクルなどの推進	4.10 ↑	7.10 ↑
社会基盤整備	4 上水道・下水道の安定供給	6.50 ↑	8.40 ↑
	5 生活道路網や広域的な道路網の整備	3.90 ↑	7.60 ↑
	6 地域公共交通の提供 (デマンドバス・外出支援サービス)	1.00 ↑	6.80 ↓
	7 住宅地や住宅の整備・供給	2.10 ↑	5.50 ↓
	8 情報通信環境の整備 (インターネットやケーブルテレビなど)	3.40 ↑	6.40 ↑
	9 行政手続きに係る電子申請・電子納付の整備	2.20 ↑	5.30 ↑
	10 SNSなどのデジタル技術の活用	1.30 -	4.10 -

I 序論

5 町民のニーズ

		項目	満足度	重要度
<p>(3) 防災・防犯・交通安全</p> <p>全項目の重要度が非常に高い分野であり、住民の自然災害、交通安全等に対する意識の高さが伺えます。</p> <p>安心・安全な地域づくりへの期待が高いことから、引き続き関係機関等と協力して取り組んでいく必要があります。</p>	防災・防犯・交通安全	11 消防施設の整備 (消火栓・防火水槽など)	3.90 ↑	7.40 ↑
		12 防災行政無線などの緊急時の通信・連絡体制	4.00 ↑	7.50 ↑
		13 土砂災害対策施設の整備 (砂防ダムなど)	2.90 ↑	7.20 ↑
		14 防犯・交通安全・消費生活に関する取組	3.00 ↑	7.40 ↑
<p>(4) 産業振興</p> <p>全項目の満足度は低い分野となっており、「16 農林業の担い手・後継者の育成支援」、「19 農地の荒廃防止の取組」、「21 雇用の場の創出の取組」は満足度と重要度の差が大きい項目となっています。全項目の満足度が上昇してはいますが、農林業の担い手、後継者の育成や農地の荒廃防止、雇用の場の創出などの取り組みが求められています。</p>	産業振興	15 農林業の基盤整備 (農林道、水路)	1.40 ↑	6.30 ↑
		16 農林業の担い手・後継者の育成支援	-0.70 ↑	6.60 ↑
		17 地産地消推進や食の安全確保の取組	2.00 ↑	6.60 ↑
		18 農業と観光を連携させた交流型事業への取組	0.60 ↑	4.80 ↑
		19 農地の荒廃防止の取組	-1.10 ↑	6.70 ↑
		20 地域の商店など買物環境を守る取組	1.00 ↑	6.80 ↑
		21 雇用の場の創出の取組 (企業誘致、既存企業支援など)	-0.40 ↑	6.70 ↑
		22 特産品開発や起業の支援	0.30 ↑	5.30 ↑
		23 観光拠点整備と広域連携による観光振興	0.80 ↑	5.30 ↑
		24 観光客受入体制や観光情報の提供体制	0.60 ↑	4.90 ↑
<p>(5) 学校教育</p> <p>全項目の満足度が前回より上昇していることから、学校・家庭・地域が連携した取り組みが評価され、期待されていると考えられます。</p>	学校教育	25 少人数学級や保育所・小学校・中学校一貫教育の推進	2.50 ↑	5.80 ↑
		26 学校・家庭・地域が連携した学校教育の推進	2.80 ↑	6.10 ↓
		27 児童・生徒の教育支援体制 (スクールソーシャルワーカー・学習支援員の配置)	2.50 ↑	6.00 ↑
		28 学校教育環境の整備やICT教育の推進	2.20 ↑	5.70 ↓
<p>(6) 生涯学習</p> <p>全体的に重要度が低い分野ですが、前回より重要度・満足度が上昇しています。「32 青少年の健全育成」は重要度が高いことから、青少年の健全育成への取り組みが今後も必要とされています。</p>	生涯学習	29 公民館・図書館の有効活用	2.60 ↑	5.50 ↑
		30 地域の歴史・芸術・文化の振興及び継承の取組	1.70 ↑	4.60 ↑
		31 スポーツ活動の支援や推進の取組	2.30 ↑	4.70 ↑
		32 青少年の健全育成	2.20 ↑	5.90 ↑
<p>(7) 人権</p> <p>満足度は前回より上昇しています。様々な人権課題への正しい理解と認識を深めるための啓発活動の継続が必要です。</p>	人権	33 男女共同参画の推進	1.60 ↑	4.60 ↓
		34 人権教育・啓発の推進や人権を守る取組	2.40 ↑	5.30 ↑

		項目	満足度	重要度
(8) 福祉 総じて満足度は前回調査より上昇していますが、重要度も上昇していることから、今後、さらなる福祉施策の充実が期待されています。	福祉	35 福祉の相談窓口や地域での支え合い体制	2.40 ↑	6.50 ↑
		36 高齢者への福祉サービス（介護予防・生きがい対策・地域における支え合いなど）	2.50 ↑	6.80 ↑
		37 障がい者への福祉サービス（社会参加促進・地域での生活支援など）	2.00 ↑	6.80 ↑
		38 生活困窮者への支援、各種サービス	1.50 ↑	6.00 ↑
(9) 子育て支援 「41 妊産婦や乳幼児への健診の充実」が、全体の中で高い満足度となっており、かつ全項目の満足度が前回調査より上昇しています。重要度も上昇していることから、引き続き、子育て環境の充実が求められます。	子育て支援	39 子育て相談窓口や情報交換・提供などの支援	2.50 ↑	6.30 ↑
		40 放課後児童クラブや放課後子ども教室などの子育て支援	2.70 ↑	6.60 ↑
		41 妊産婦や乳幼児への健診	3.20 ↑	6.70 ↑
		42 保育サービス（保育所、病児・病後児保育など）	2.90 ↑	7.00 ↑
(10) 健康・医療 「43 健康対策事業の推進」「44 医療費助成制度の充実」が全体の中で高い満足度と重要度を示しています。引き続き、健康対策事業の推進を図っていく必要があります。	健康・医療	43 健康対策事業の推進（健康診断、健康相談、健康教育など）	4.20 ↑	7.00 ↑
		44 医療費助成制度の充実	3.50 ↑	7.30 ↑
		45 住民と行政の協働による地域で保健福祉を支える仕組み	2.50 ↑	5.60 ↓
(11) 住民参画・地域づくり 「48 空き家対策の推進」「50 移住・定住促進の取組」が全体の中で低い満足度となっています。さらに満足度と重要度の差も大きいことから、空き家への早急な対策や移住定住施策が求められます。	住民参画・地域づくり	46 情報発信による行政への住民参画の仕組みづくり	1.90 ↑	5.10 ↑
		47 地域・集落・団体などの自主的活動の支援	2.10 ↑	4.80 ↑
		48 空き家対策の推進	-0.70 ↑	6.00 ↑
		49 地域の活動拠点の整備（集落公民館など）	2.40 ↑	5.30 ↑
		50 移住・定住促進の取組	0.50 ↑	5.70 ↓

●アンケート結果より

まちへの愛着を持っている方が多いことから、満足度と重要度に差がみられた「産業振興」「福祉」「住民参画・地域づくり」等の取り組みの強化や充実により、暮らしやすさを向上させることで住民の定着が図られ、人口減少の抑制につながると考えられます。

<中学生アンケート結果>

調査対象	町内の全中学生	調査期間	令和7年7月
対象者数	265名	回収総数	228件
調査方法	Google フォーム	回収割合	86.0%

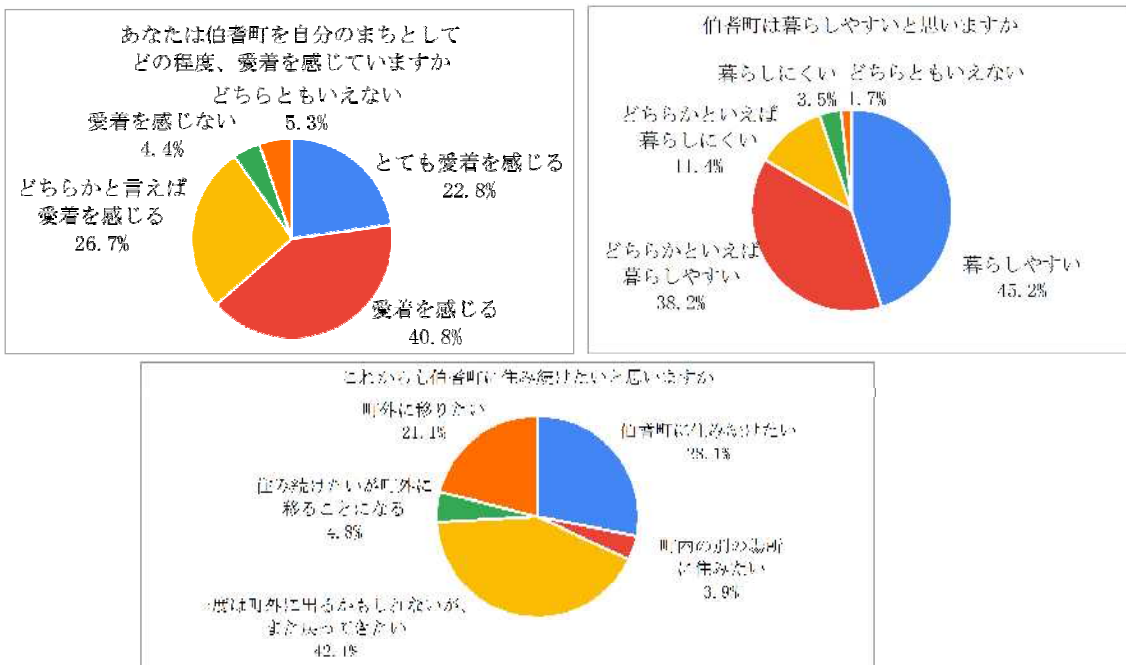
○まちへの愛着・住みやすさについて

多くの中学生が伯耆町に愛着を感じ、暮らしやすい、住み続けたいと思われていることが、アンケート結果から明らかになりました。

どちらかといえば愛着を感じる以上の回答は 90.3%、

どちらかといえば暮らしやすい以上の回答は 83.4%、

一度は町外に出るかもしれないが、また戻ってきたい以上の回答は 74.0% という結果となりました。

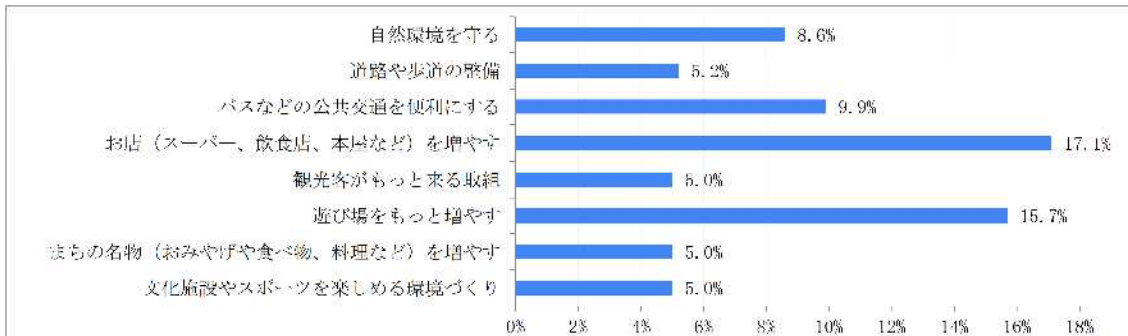


町外に移りたいと回答された方の理由として、買い物や飲食、移動（公共交通）が不便といった理由や娯楽施設・遊ぶ場所がない、働く場所がないという方が多い結果となっています。

○伯耆町にもっと力を入れてほしいところについて

もっと力を入れてほしいところはという問いに対し、「お店を増やす」「遊び場をもっと増やす」といった商業施設の拡充を求める回答が多く、次いで「バスなどの公共交通を便利にする」「自然環境を守る」という回答が多い結果となりました。

(抜粋：5.0%以上の回答があった項目)



○伯耆町の「良いところ」「自慢できるところ」

「悪いところ」「良くなってほしいところ」について

「良いところ」「自慢できるところ」については、自然豊かという回答が圧倒的に多く、伯耆町は自然豊かなまちだと感じている中学生が多いということが分かりました。

「悪いところ」「良くなってほしいところ」については、「店が少ない、店を増やしてほしい」といった商業施設の充実や「交通が不便」といった交通網の改善を求める回答が多い結果となりました。

(抜粋：上位5項目)

良いところ		自慢できるところ	
自然豊か	50.0%	自然豊か	36.4%
人が優しい	13.9%	大山がある、大山がきれいに見える	16.3%
あいさつができる	5.5%	人が優しい	8.4%
地域でのつながりが良い	4.3%	あいさつができる	5.9%
空気がきれい	4.0%	水がきれい	4.6%

悪いところ		良くなってほしいところ	
店が少ない	20.2%	店を増やす	19.3%
交通が不便	10.5%	交通網	13.5%
遊び場がない	10.1%	遊び場を増やす	9.2%
人が少ない	5.0%	人を増やす（特に若者）	3.8%
ゴミが捨ててある	3.8%	道路整備（通学路含む）	2.9%

●アンケート結果より

中学生はまちへの愛着が非常に高いということから、商業施設等の生活環境整備や交通の利便性の向上などにより、暮らしやすいと感じてくれるまちにしていくことで、定着が図られ、人口減少の抑制につながると考えられます。